

各学部の  
目標

小学部

児童の命や人権を守り、児童一人一人の発達段階や特性、教育的ニーズに応じた教育を行い、学ぶ楽しさや、できることの喜びを経験することを通して、人や物への興味・関心を広げ、心豊かに生きる児童を育成する。

中学部

生徒の命や人権を守り、一人一人の発達段階や特性、教育的ニーズに応じた教育を行い、社会生活における基本的な力を身に付けることができるようにするとともに、心豊かに明るくたくましく生きることできる生徒を育成する。

高等部

生徒の命や人権を守り、一人一人の実態や教育的ニーズに基づいた青年期における課題の解決や人間形成の確立を図り、卒業後の自立と社会参加の実現に積極的に自我関与することのできる生徒を育成する。

各学部の重点事項

確かな学びの実現

- ・ 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程を編成し学部間、課程間、学年間の連携を図り、学びの積み上げを重視した教育に努める。
- ・ 児童一人一人の発達段階や特性に応じた教育的ニーズを把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づいた授業実践や評価改善を行う。
- ・ 自己選択、自己決定のできる場面を設定し、発声や言葉、サイン、表情等コミュニケーション力の基礎を育成する。
- ・ 児童が興味・関心をもって取り組めるように、個々の状態に応じた教材・教具を整え、授業実践を通じた評価・改善を行う。
- ・ 病棟や保護者との連携のもと、個々の障害の状態や病状、特性などを把握し、指導目標や内容を設定するとともに、学部との共通理解を深め、授業の充実を図る。(訪)

- ・ 学習指導要領の趣旨や学部間の学びの積み上げを重視した教育課程を編成し、小、中、高一貫した教育を行う。
- ・ 生徒一人一人の発達段階や特性、教育的ニーズを共通理解し、個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づいたきめ細かな指導を行う。
- ・ 自主的、主体的な学習を推進し、基礎・基本の習得、活用を図る。
- ・ 発声や言葉、サイン、表情等によるコミュニケーション能力を育成する。
- ・ 主体的に生き生きと活動するための教材・教具の活用、開発を進めながら授業改善を行う。
- ・ 病棟や保護者との連携のもと、個々の障害の状態や病状、特性などを把握し、指導目標や内容を設定するとともに、学部との共通理解を深め、授業の充実を図る。(訪)

- ・ 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、学びの積み上げをもとに社会生活につながる年間指導計画の見直し、編成に努める。
- ・ 授業実践の評価改善を基に学習を計画し、生徒が理解を深めたり、課題を解決したりできる指導法の改善、教材・教具等の開発に努める。また、ICTの活用を積極的に取り入れ、必要に応じては遠隔授業ができるような体制作りをする。
- ・ 各課程会を定期的に設定し、個別の指導計画の目標や手立てを共有し、きめ細やかな指導の一貫性を図る。
- ・ これまで習得・活用してきたコミュニケーション能力の幅をさらに広げ、自己発信しながら学びに向かうことができる力を育成する。
- ・ 病棟や保護者との連携のもと、個々の障害の状態や病状、特性などを把握し、指導目標や内容を設定するとともに、学部との共通理解を深め、授業の充実を図る。(訪)

豊かな人間性の育成

- ・ 合同学習等、学年を越えた児童同士との学び合いの場を設定し、他者を意識する関わりの実践や他者の気持ちに気付く場面を増やすことで、自分のことを意識し大切にしたい心や他者を思いやる心を育てる。
- ・ SDGsの考え方を基に、児童の人権を尊重し、挨拶や決まりを守ることなど、基本的な生活習慣の定着を図る。
- ・ 交流及び共同学習での同学年や異年齢集団との関わりや、校外学習等の体験的な学習を通して、社会的な経験の拡大を図る。
- ・ 多様な経験を通して、人や物を意識し、自発的な発信を引き出す学習形態や指導体制を工夫する。(訪)

- ・ 学校、学部行事や交流学習、集団学習を通して、友達や周囲の人との関わりや社会経験の拡大を図り、豊かな情緒や社会性を育てる。
- ・ SDGsの考え方を基に、生徒一人一人の人権を尊重した指導や自尊感情を大切にしたい指導を推進する。
- ・ 校外学習等の体験的な学習により、興味・関心の幅を広げ、社会経験、生活経験の拡大を図る。
- ・ 多様な経験を通して、人や物を意識し、自発的な発信を引き出す学習形態や指導体制を工夫する。(訪)

- ・ 集団活動で一人一役、他者（の思い）への気づきを促す活動を工夫し、責任感や所属感、自己有用感を持つようにする。
- ・ SDGsの考え方を基に、青年期における生徒一人一人の人権を尊重し、生徒が自己の課題解決や興味・関心の拡大に向けて行動し、自尊感情や自己肯定感を高められるようにする。
- ・ 交流及び共同学習や校外学習、産業現場等における実習等を通して、社会的な経験や生活体験の拡大を図る。
- ・ 多様な経験を通して、人や物を意識し、自発的な発信を引き出す学習形態や指導体制を工夫する。(訪)

健康で安心・安全に  
学べる教育環境の整備

- ・ 登下校時における病棟や保護者との情報交換や日々の健康観察を入念に行い、個々の体調や病状に応じた対応、指導内容を選定する。
- ・ 感染症対策を徹底し、教室及び特別教室等の整備（設営・室温の調節・安全）や衛生管理（消毒、換気）、教材・教具や校内周辺の整備に取り組む。
- ・ 医療的ケアへの理解を深め、看護師や養護教諭、保護者と連携し、安全かつ適切な医療的ケアの実施に努める。
- ・ 家庭との連携を密にし、個に応じた食習慣の定着を図る。
- ・ 病棟や保護者との連携のもと、児童の日々の体調に合わせた指導に努めるとともに、環境（換気、衛生、安全、音量、設営）などを整備する。(訪)

- ・ 登下校時における病棟や保護者からの申し送りや日々の健康観察を入念にし、個々の体調や病状に応じた対応や指導内容を選定し、授業を実施する。
- ・ 感染症対策を徹底し、教室及び特別教室等の整備（設営・室温の調節・安全）や衛生管理（消毒、換気）、教材・教具や校内周辺の整備に取り組む。
- ・ 医療的ケアへの理解を深め看護師や養護教諭、保護者と連携し、安全かつ適切な医療的ケアを実施する。
- ・ 家庭との連携を密にし、食に関する指導の充実を図る。
- ・ 病棟や保護者との連携のもと、生徒の日々の体調に合わせた指導に努めるとともに、環境（換気、衛生、安全、音量、設営）などを整備する。(訪)

- ・ 保護者や関係機関等との連絡、本人の意思確認を密に行い、体調や病状の状態に応じて指導内容や学習姿勢に配慮し、担当者間の連絡を確実に行うようにする。
- ・ 養護教諭、看護師と連携して健康管理や必要な医療的ケアを継続し、生徒の適切な学習環境の整備に努める。
- ・ 感染症対策を徹底し、教室及び特別教室等の整備（設営・室温の調節・安全）や衛生管理（消毒、換気）、教材・教具や校内周辺の整備に取り組む。
- ・ 家庭との連携を密にし、食に関する指導や口腔ケアの充実を図る。
- ・ 病棟や保護者との連携のもと、生徒の日々の体調に合わせた指導に努めるとともに、環境（換気、衛生、安全、音量、設営）などを整備する。

自立と社会参加

- ・ 長期的な視野で児童一人一人のキャリア発達の課題を明確にし、自己理解や役割を意識した指導に取り組み、他者と関わる力の育成に努める。
- ・ ケース会などを通して関係機関との連携を密にし、進路指導係と連携して進路希望調査を行い、PTA等で情報提供を行う。
- ・ 病棟や保護者、学部と連携し、多くの人と関わる経験をもてるように、集団活動の機会を設定する。(訪)

- ・ 進路指導主任と連携してPTA等で進路に関する情報提供をしたり、進路相談を計画したりする。
- ・ 卒業生の余暇の充実に向けて、好きなことや興味・関心のあることの充実・拡大を図る。
- ・ 各ケース会を通して関係機関との連携を密にし、生徒の情報共有を図り、指導に生かしていく。
- ・ 病棟や保護者、学部と連携し、多くの人と関わる経験をもてるように、集団活動の機会を設定する。(訪)

- ・ 学校設定教科「自立と社会参加」、産業現場等における実習や校内実習等の充実を図りながら、個々の課題を明確にし、社会生活に必要な知識や技能の定着に努める。
- ・ 進路指導部と連携して学部PTA等で進路情報の提供や進路スケジュールの提示、個別の相談等を行い、保護者の理解、協力を得るようにする。
- ・ 各ケース会や四者面談等を通して、地域の医療や福祉と連携し、生徒の情報共有に努める。
- ・ 病棟や保護者、学部と連携し、多様な人と関わる経験を重ね、自分らしい表現や役割を果たす場面を設定する。(訪)

## 2 基本的な考え方と目指す児童生徒像

	課程	基本的な考え方	目指す児童生徒の姿
小学部	A・B	小学校に準ずる教育を行うことを基本としながら、個々の児童の学習状況や病気の状態、学習の制約に配慮し、児童が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送ることで、現在及び将来における自己実現を図る力を育てていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分でできることを自分でしようとする児童</li> <li>明るく心豊かにたくましく生きる児童</li> <li>時間や決まりを守り周囲の人と協力する児童</li> <li>自身の病気や障害について正しく知り健康の維持・改善、自立に向けた生活を送ろうとする児童</li> </ul>
	C・D	周囲の人との関わり合いや学習の中で、児童の個性や発達を見据え、段階的に繰り返し指導することで児童が自己肯定感を高めながら生活できるようにしたい。また、児童が自己選択や自己決定をしながら学校生活を送ることで、問題を解決し、現在及び将来において、より豊かに生きていくための力を育てていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に学習に取り組もうとする児童</li> <li>自分の気持ちや体調に気付きながら生活しようとする児童</li> <li>友達と仲良く関わろうとする児童</li> </ul>
中学部	A・B	中学校に準ずる教育を行うことを基本としながら、生徒の個性や可能性を伸ばすとともに、病気や学習に対する不安の軽減を図れるよう、心理的支援をしていきたい。また、生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導の充実を図り、自立した社会生活を送るために必要な学力と適応力を培っていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学び自ら考え行動できる生徒</li> <li>自ら生活を豊かにし明るく生きる生徒</li> <li>人を思いやり他者と協力する生徒</li> <li>自ら健康を育みたくましく生きる生徒</li> </ul>
	C・D	小学部（校）で積み上げてきた力を基盤に、友達や周囲の人を意識し関わりながら、基本的な生活習慣並びに生活経験を拡大し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図り、主体的に活動しようとする力や心豊かに明るく生きようとする力を培っていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康に気を付けながら心豊かに明るく生きる生徒</li> <li>生活経験を広げ、個々に応じた基本的な生活習慣を身に付けようとする生徒</li> <li>自分の意思を伝えるなどして、人との関わりを楽しむことができる生徒</li> </ul>
高等部	A(1)(2)	高等学校に準ずる教育を行うことを基本としながら、さらに基礎学力の向上を図り、これまで育ててきた生活習慣や態度を基に、社会生活に必要な知識や教養の定着を図る。また、卒業後の自立と社会参加を目指して、人間関係を構築し、自らの病状を正しく理解しながら、生きがいをもって生活できる進路実現につなげていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら課題を見付け、意欲的に学習する好奇心旺盛な生徒</li> <li>病状を正しく理解し、社会生活に耐えうる体力、体調の維持、増進のできる生徒</li> <li>相手の気持ちを思いやりながら、自分の思いや考えを伝えることができる生徒</li> <li>自己の健康状態や特性を理解しながら、自ら進路選択・実現できる生徒</li> </ul>
	C	中学部（校）で積み上げてきた力を基盤に、生徒一人一人がその可能性や個性を最大限に発揮できるように、教育課程の内容や支援の在り方等を、障害の状態や発達の段階に応じて随時工夫し改善していく。また、個々の実態が幅広く、ニーズも様々であるので、家庭や関係機関との連携を密にしながら、将来を見据えた学習活動の充実を図っていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康管理に努めながら、基本的な生活習慣の向上を目指す生徒</li> <li>一日一日の目標を持ちながら、意欲的に活動できる生徒</li> <li>周囲と調和しながら、豊かな自己表現ができる生徒</li> </ul>
	D	自立活動を主として編成した教育課程で、指導を行うに当たっては、全人的な発達を促すために必要な基本的な指導内容を、これまで育てられた力を基盤に、生徒一人一人の実態に応じて設定する。また、卒業後の社会生活を見据えて、社会集団の中で生きていく力を養うために、他者と関わる力や興味・関心の拡大をねらいとした学習活動の充実を図っていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康管理に努めながら、快・不快の状況や体調の変化に対する気付きを自分なりの方法で周囲に発信できる生徒</li> <li>自分のよさを精一杯生かしながら、自らの表現で他者に関わっていこうとする豊かな自己表現ができる生徒</li> </ul>

### 3 訪問教育学級（E課程）

目 標	児童生徒一人一人の障害の状態及び体調を考慮しながら、人との関わりや生活経験を広げ、豊かな感性や情緒をもって生きようとする児童生徒を育成する。
重点事項	<p>ア 児童生徒の健康の保持，安全のための環境作りに取り組む。</p> <p>イ 児童生徒の実態を的確に把握し，個々の課題に応じた教育内容や指導方法の工夫・改善に取り組む。</p> <p>ウ 体験的学習や集団学習，交流学习等の活動を通して，学ぶことの楽しさを感じ，自ら学ぼうとする意欲や感性の育成を目指す。</p> <p>エ 病棟・保護者及び関係機関との連携を密にし，共通理解を図る。</p>
指導上の配慮事項	<p>ア 病棟や保護者との連携のもと，児童生徒の日々の体調に合わせた指導に努めるとともに，環境（室温・湿度・換気・衛生・安全・音量・設営等）を整備し，健康の保持増進を図る。</p> <p>イ 病棟や保護者，関係機関との連携のもと，個々の障害の状態や病状，特性，発達段階等を把握し，発声やサイン，表情等による自発的な動きを引き出し，コミュニケーション形成の素地や 学習の基礎を築く。</p> <p>ウ 個別学習・集団学習・スクーリング等，いろいろな学習の場を設定し，人と関わったり，経験をしたりする中で豊かな情緒や自発的な動き・意欲・探求心の促進等を図る。</p> <p>エ 朝の申し送りや授業前後の看護師からの聞き取り，保育士・指導員との連携，保護者との教育相談や授業参観などの機会の充実を図る。</p>
基本的な考え方	<p>隣接する病院内のベッドサイドや訪問教育棟，または，自宅において訪問教育を行う。訪問教育を行っている大部分の児童生徒が常時医療的ケアを必要としており，健康状態が不安定で，姿勢・移動・摂食・行動範囲等，日常生活全般にわたって制約が多く，生活経験を広げる機会をもつことが難しい。そこで，健康状態や体調など個々の状態に応じた様々な関わりを通して，外界からの刺激を受け止め，生活体験を広げ，明るく，より豊かに生きていくための力を育てていきたい。</p>
目指す児童生徒の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 快・不快の状況や体調の変化に関して，周囲に発信できる児童生徒</li> <li>・ 様々な刺激を受容し，自分なりのコミュニケーションで人やものに関わろうとする児童生徒</li> <li>・ 学習や様々な活動に意欲的に取り組み，楽しみや喜びを見付けることのできる児童生徒</li> </ul>